

バイオテック情報普及会

第2回

高校生科学教育大賞

支援対象校募集

バイオテック情報普及会は、高校生の農業とバイオテクノロジーの理解促進につながる科学教育活動への支援を行う「第2回高校生科学教育大賞」を、平成30年4月27日まで募集します。

バイオテック情報普及会では、持続可能な農業の実現や食料の安定供給への貢献を念頭に、バイオテクノロジーの重要性をご理解いただくため、様々な活動を行っております。その一環として、これからを担う高校生の皆様に「持続可能な農業」と「植物バイオテクノロジー」についてより深く学び考えるきっかけとしてもらうことを目的に、平成29年に「高校生科学教育大賞」を設立し、支援対象となる科学教育活動を公募いたしました。

第1回となった昨年、平成29年は全国各地の高校から合計28件の応募を頂き、各校より提出された申請書類に基づき厳正な審査を重ねた結果、山形県立米沢興譲館高等学校が最優秀校に選ばれ、活動資金として100万円が支援されました。

第2回目となる本年も、農業とバイオテクノロジーに関連する活動計画やアイデアをお持ちの高校の先生及び生徒の皆様からのご応募をお待ちしております。



活動費用として
最大
100万円
支援



バイオテック情報普及会

COUNCIL FOR BIOTECHNOLOGY INFORMATION JAPAN

遺伝子組換え技術は、暮らしに役立つ可能性を育てています。

募集要項

募集対象 高等学校、高等専門学校における学校行事・部活動等の科学活動。

主 旨 生徒自身または一般消費者の「持続可能な農業」や「植物バイオテクノロジー」への理解が促進されるような、実現可能で具体的な科学活動を支援する。

支援内容 最優秀校(1校)、優秀校(数校)に選ばれた学校に、申請した活動費用の一部または全額を支援する。

- 1校当たり100万円を上限とする。
- 申請額より減額して支給される場合がある。

※活動費用：本活動に伴う、実験、調査、専門家派遣、海外研修、施設見学、交通費、書籍購入、報告のための学会参加費等に係る費用の一部または全額。

※国内外の移動を伴う場合は、各学校の教員がコーディネート及び引率を行い、各学校の責任の下で実施すること。

支援期間 平成30年7月～平成31年12月

利用規約 以下の規約を読み、同意した方のみ応募すること。応募書類をバイオテック情報普及会に送付した時点で、以下の規約に同意したものとみなす。

1. 支援金の取り扱い

- 申込書の支援金の使途に変更がある場合は、平成30年11月末日までにただちに当会に相談する。
- 支援金の使途について、領収書の提出等を求める場合がある。
- 本利用規約に違反した場合、本支援金を返還して頂く場合がある。

2. 提出書類

- 本支援事業採択後に申込書の記載内容に変更があった場合には、ただちに当会まで連絡する。
- 学内外での活動終了後1か月以内に、本支援事業により実施した活動の成果について活動報告書を提出する必要がある。
- 採用された活動の概要及び活動報告書は、当会ウェブサイトにて公表する。

3. 成果の公表

- 採択者は、本成果を公表するよう努力する。
- 採択者は、本成果を学校内外で発表、報告する場合、当会に報告するとともに、本支援事業の交付を受けて行った活動であることを明記する。

応募方法 当会ウェブサイトより申込書をダウンロードし、下記の申し込み先までE-mailまたは郵送で送付する。応募は学校を通じて行い、各校3案件までとする。

- 申込書は指定の書式を使用する。
- 支援金の具体的な使用方法等(例：渡航費xx円、滞在費xx円等)を明記する。
- 担当教員1名を申込責任者とする。
- 手書きは選考対象外とする。
- 選考の際に学校名は伏せて審査するため、申請書2、3枚目の「活動の概要」には学校名を記載しない。

選 考 当会会員企業及び下記の委員からなる選考委員会において行う。

- 小泉 望氏 (大阪府立大学大学院 生命環境科学研究科 教授)
- 小島 正美氏 (毎日新聞 東京本社生活報道部 記者)
- 高島 賢氏 (農林水産省 消費・安全局 農産安全管理課 審査官)

応募締切 平成30年4月27日 当日消印有効

発 表 平成30年6月頃、採択者に通知する他、当会のウェブサイト上にて発表する。

■申し込み・お問い合わせ先

バイオテック情報普及会 事務局
〒101-0044 東京都千代田区鍛冶町2-2-2 神田パークプラザ5階

- Tel: 03-3525-4805
- E-mail: secretariat@cbijapan.com
- URL: http://www.cbijapan.com/

※必要に応じて事前相談を受け付けております。
※右記のQRコードからウェブサイトへアクセスできます。



バイオテック情報普及会
COUNCIL FOR BIOTECHNOLOGY INFORMATION JAPAN
遺伝子組換え技術は、暮らしに役立つ可能性を育てています。

バイオテック情報普及会について

バイオテック情報普及会(英名:Council for Biotechnology Information Japan, CBIJ)は、植物科学やバイオテック作物の開発企業で構成する国際組織「クロップライフ・インターナショナル(本部ブリュッセル)」傘下の任意団体で、2001年10月1日に設立されました。本会は、「クロップライフ・インターナショナル」のビジョンである持続可能な農業の実現や食料の安定供給への貢献を念頭に、サイエンススペースで透明性ある許認可システムの構築を支援するための活動や幅広いステークホルダーの皆様へバイオテクノロジーの重要性をご理解いただくための広報活動を行っています。

■バイオテック情報普及会 会員企業

シンジェンタジャパン株式会社、ダウ・アグロサイエンス日本株式会社、デュポン・プロダクション・アグリサイエンス株式会社、日本モンサント株式会社、バイエル クロップサイエンス株式会社、BASFジャパン株式会社 (50音順)